

新たな自分へ

中 三

「くまモン、またね。」

可愛らしさに満ちた男の子の声に、

「またね。」

と手を振り笑顔を向ける僕がいた。その僕は、新たな僕だ。今までとは違う僕。そんな僕を大きく変えたきっかけがあったのだ。

四月十四日、夜九時二十六分、日本列島に大きな衝撃が走った。「信じられない。」この動揺にも恐怖にも似た感情が、僕の心を支配した。

この日、熊本を中心とした九州地方が震度七の大地震に見舞われた。その様子は、すぐさまテレビなどのマスメディアを通じて、僕の目に飛び込んできた。二階建ての住宅は、地震の衝撃で一階部分が倒壊し、見るも無残な状態になっていた。そして、家を失い、大切な友人や家族を失い、戸惑いと悲しみを隠せない熊本の人々の様子も映し出されていた。あの惨状は、一度見たら目に焼きついて、もう何とも言い表すことができない。そ

こには、「自分にはあまり関わりはない」という傍観者としての立場の僕自身が少なからず存在していた。しかし、そのような僕は、気付いたら存在を消していた。

僕は、東日本大震災を想起した。それは、「惨状」ばかりではない。むしろ、「人と人とのつながり」「やさしさをさしのべる人々」そのような温かな部分が多かった気がする。

僕にも何かできるのではないか、いや、何かできないのか、と考えた。そのとき、ふと生徒会本部のメンバーの顔が浮かんだ。僕一人では大したことではないが、学校みんなの力を借りればできることがあるのではないかと。そして生徒会本部において、「今、私たちにできることとあなたの笑顔のために」というプロジェクトを立ち上げた。僕たち生徒会本部は、熊本地震で被災された方々へ「何か力になりたい」「まずは自分たちから」という思いに駆られ、支援活動をはじめた。震災の現状を知るにつれて、いてもたってもいられなくなった。翌日には緊急で生徒会本部会議を開き、役員の仲間と具体的な活動を決めていった。そして、みんなの思いは一つになった。それが、

『せいがからつなげる いのちのバトン がんばろう、共に』

である。これは僕たちの中学校名「菁莪^{せい}が」からつくった支援活動のスローガンである。

会議の翌日、早速支援活動が始まった。こんなにも早く行動に移したのは、僕にとって初めてのことだった。お手製の募金箱と想いのこもったポスターを持って、募金の街頭活動を行った。駅前や農産物を扱うしらかおか味彩センター、そして母校の小学校。自分の学校の外での活動には、勇気が要った。最初は、先生や仲間の声量で負けていて、上手く呼びかけができなかった。しかし、僕はここで思いきって大きな声をみんなと一緒に出してしてみた。そうすると、笑顔で近づいてきてくれるおじいさんやおばあさん、幼い子供たちがいたのだ。募金に協力をしてくださった方々から、

「頑張っつね。」

「宜しく願います。」

「福島の人に私も助けてもらったのよ。」

など、多くの温かい言葉をかけてもらった。何だか、僕が応援されているようで、とにかく嬉しかった。

小学校での活動は、一年生や二年生に熊本地震への募金活動のことが言葉では上手く伝わらなかつた。そこで、生徒会本部のみんなまで思い付いたのが、「くまモン着ぐるみ作戦」である。僕は少しでも貢献したいという思いで、くまモンの着ぐるみをまとい、翌朝の募金活動へと向かった。すると、粘り強い声かけにくまモンの着ぐるみ効果が合さり、多くの協力をいただけたのだ。募金活動に夢中になり、楽しくなつてきて「喜んでくれたら」と思うと、活動の時間が短くさえ感じた。

僕は、熊本のみなさんへの支援活動を通じ、大切なものを学んだ。「今、私たちにできることゝあなたの笑顔のために」は、普段の生活でも言えることなのだ。いつでも相手の立場になつて考えて行動できる人物でありたい。

「くまモン、またね。」あの男の子や協力してくれたみなさんへ伝えたい。「しっかりと熊本へ届けます。」と。心からそう思う。僕たちの活動に対して、僕の気持ちに対して、心が温まる手助けをいっぱいありがとう。そして新たな僕に気付かせてくれて、本当に感謝している。